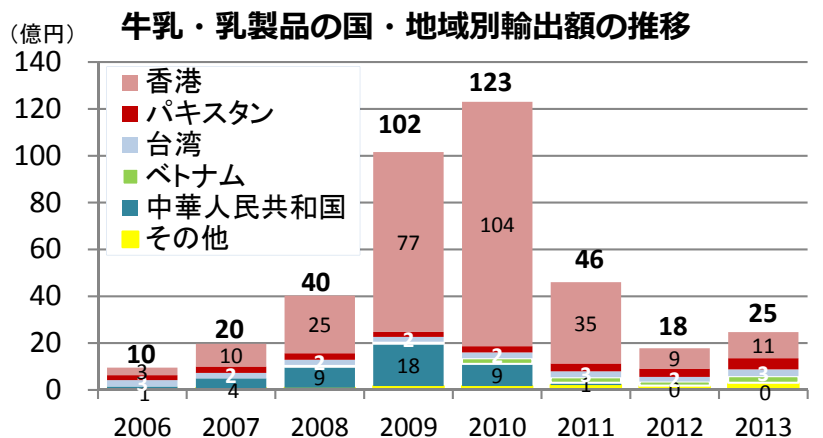


# 牛乳・乳製品の輸出目標の達成に向けて

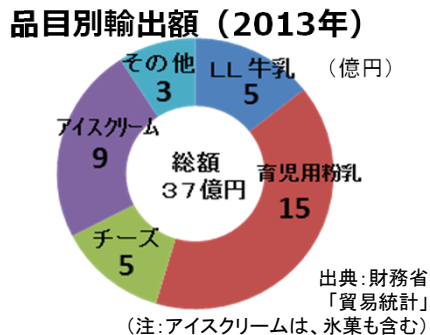
## 輸出の現状

- 近年、牛乳・乳製品の輸出は、香港・中国・台湾など、近隣諸国等向けが増加傾向で推移。
- しかし、口蹄疫(2010年)や原発事故(2011年)に伴い、各国・地域の輸入規制措置や安全性への信頼低下等から、輸出額は大幅に減少。



出典：財務省「貿易統計」  
(注：LL牛乳、育児用粉乳、チーズの輸出額の合計)

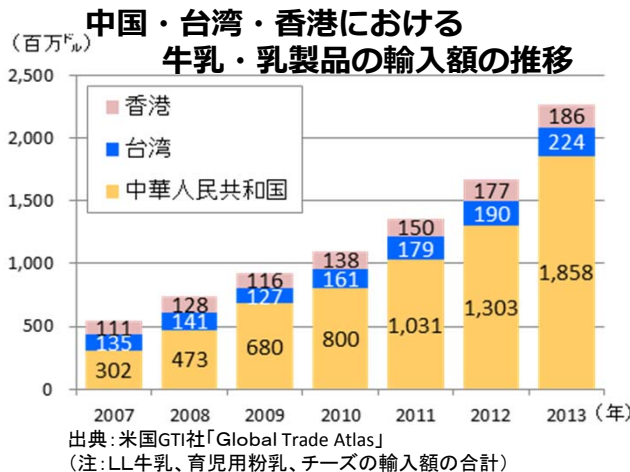
- 品目別で見ると、LL牛乳及び育児用粉乳が半分以上を占め、チーズは1割程度。



- 輸出品の大半は、大手又は中堅乳業(及びそれらの子会社)による製品であり、企業体力の問題等から小規模な乳業による輸出の取組は低調。

## 分析

- 急増するアジアの牛乳・乳製品需要を取り込めれば、国内の酪農・乳業の発展のチャンス。
- 輸出する乳製品の戦略的な検討が必要。
  - ・チーズ等、付加価値の高い乳製品
  - ・アジア市場との近さを活かしたフレッシュな乳製品
  - ・「日本ブランド」を活かせる乳製品等
- 中小乳業に対して販路の確保等の初期の事業展開への支援が必要



- 輸入規制(口蹄疫、原発事故)や食品衛生規制(食品添加物)への対応・協議の加速化が必要。
- 低下した信頼やブランドイメージの回復が必要。

## 対応方向

- 輸出額目標  
牛乳・乳製品を含む加工食品(調味料類、菓子類、清涼飲料水を除く)として、  
2012年 814億円  
↓  
2020年 2,000億円 へと拡大。

### 取組の方向

- 牛乳・乳製品の輸出について、乳業メーカー(特に中小乳業)の理解を啓発。
- 意欲のある乳業メーカーに対して、商談会への参加やマーケティング活動など、輸出の取組を支援。
- 特にチーズについては、チーズ工房等における情報交換等を推進。
- 輸入規制の撤廃・緩和に向け、科学的根拠を示しつつ協議を進めていく。
- 日本製品の信頼やブランドイメージの回復に向け、主要な輸出先国・地域において安全性や品質等の情報を発信。